

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 令和7年11月13日（木）
午後1時30分から午後3時18分まで
- 3 場所 正・副議長応接室
- 4 出席委員 （委員長）鬼頭博和 （副委員長）塚崎海緒
（委員）梅村均、日比野走、伊藤隆信、関戸郁文、舛谷規子
- 5 事務局出席 議会事務局主幹 田島勝己
- 6 委員長挨拶
- 7 協議事項
- （1）政策提言に向けた取組について
- 鬼頭委員長：資料に基づき説明
- 日比野委員：江南市と大口町との連携は名鉄沿線だからか。将来的な広域連携は何があるか。
- 塚崎副委員長：最初に小牧市との連携を考えたが、岩倉市から小牧市にバスを走らせると渋滞もあり現実的ではないと思った。駅まで市民を運んでくることで名鉄の売り上げにもつながるため、名鉄と連携しようと思うと江南市、大口町、扶桑町が実現可能かと考えた。
- 鬼頭委員長：名鉄の駅に自動運転バスが停車すれば名鉄も乗客が増える。
- 日比野委員：そうするとバスで市町をまたぐ必要があるのか。
- 塚崎副委員長：岩倉市単独でシステムを持つことが難しいので広域でシステムを管理する。バス自体は町をまたがないが、拠点を広域で持つという発想。
- 鬼頭委員長：単独で運用すると費用がかかるので各市町で同じ取組を行い、費用を分けるということ。
- 塚崎副委員長：システムにとても費用がかかり岩倉市単独で行うのはかなり難しいため広域連携で進めていくしかない。また、やらないと補助金を受けられず今後ずっとできない可能性が高いと思う。
- 日比野委員：自動運転は話を聞いている限り、どんどん行っている自治体が増えてレベルが上がっており、生半可な計画では難しくなっていく気がする。
- 塚崎副委員長：岩倉市は市域が狭いからいいと言っていると乗り遅れてしまうことになり、やらないデメリットが大きいと考えた結果、まず実証実験を行ってはどうかと思った。岩倉市内であればルートは考えやすい。
- 日比野委員：考えているルートはあるか。
- 塚崎副委員長：岩倉駅から消防署へ向かう道はどうかと思っている。道幅も広

く走りやすそうであり、スピード超過対策にもなる。住宅街を通り、川井町と野寄町を回って西市町を通って岩倉駅に戻ってくるルート。岩倉駅から千秋病院や小牧市民病院へ移動するルートは現実的でないと思っている。

鬼頭委員長：市内の南西部と北部の2ルートをまずやってはどうかと思っている。南西部であればあまりバスが通っていない川井町、野寄町、北島町。北部は八剣町。

塚崎副委員長：今回視察に行ったタイプだけではなく、春日井市のゴルフのカートのようなタイプも気になっており、そちらでもよいと思う。

鬼頭委員長：昨年は日程が合わず行けなかつたが、今年も春日井市への視察申込を調整している。米原市は説明する内容がないということで断られた。日にちも迫ってきていたため、春日井市が調整できれば視察に行きたい。

桝谷委員：岐阜市もどうか。

塚崎副委員長：岐阜市は境町と同じ会社なので別会社の春日井市を検討している。また、車両が全く違うということもある。

鬼頭委員長：高蔵寺が山で高齢者の移動が大変なので需要があったようだ。

梅村委員：ふれ愛タクシーのドライバー不足に備えて実施してもいいかもしれない。

塚崎副委員長：課題として、このシステムを岩倉市単独で持つことは財源的に難しいと思うので、同じ悩みを共有している市町と広域で導入できれば、あとは車両だけである。補助金があるうちに実施したほうがよい。自転車で移動することを考えたら足腰が悪い人にはよいと思う。

梅村委員：広域は少し難しいかもしれない。こういうものが民間の公共交通にどういった影響があるのか公共交通会議を開かないといけない等、ルール上のこともある。

塚崎副委員長：補助金を受けるには官民連携の方が受けやすい。

鬼頭委員長：名鉄は幸田町でドローンと自動運転車の連携に関わっている。そういう例もあるので名鉄も全く考えがないわけではないと思う。

桝谷委員：これを12月定例会の代表質問で行うことを考えているのか。

塚崎副委員長：そうではない。まだ骨組みの段階なので、できるかどうか、もう少し具体的なところを話していかないといけない。

梅村委員：補助金があるが、どれくらい持ち出しか。境町はふるさと納税で財源を蓄えていたからできたという印象がある。岩倉市の場合はそこに優先して財源をかけられるか。春日井市が安くできていればよいが。

塚崎副委員長：交通の安全が役割として大きいと感じた。自転車活用のまちづ

くりが進んでいく中で、自動車のスピード超過運転は課題になると思う。

梅村委員：交通安全なら違うやり方もある。付随効果としては良いと思うが、それをメインに路線を選ぶよりは外出支援や公共施設を回るルートの方が自然だと思う。また、野寄町や北島町は以前デマンドタクシーを行った際はあまり利用者がなかった。その事情も調べないと必ずしもそのルートが良いかどうか分からぬ。

塚崎副委員長：三世代同居が多い印象があり、送迎が当たり前になっているのかとも思うが、それが持続可能なのかどうか。

梅村委員：タクシードライバーも今後減っていくため自動運転は取り組んでおいたほうがよいとは思うが、優先順位の問題がある。もっと高齢者福祉に使用したり、子どもだと給食費等の負荷軽減に使用したりもできる。

鬼頭委員長：インフラ整備にもお金がかかっている。水道管も古くなっている。

塚崎副委員長：実証実験までの提案かと思う。絶対に走らせるようには言えない。

鬼頭委員長：実験してデータを取ってみて、市民がどう考えるか。

桝谷委員：実証実験の場合の補助金がある。

梅村委員：もう少し調べたい。自治体の状況によって違うかもしれない。

鬼頭委員長：執行機関が小牧市にも乗りに行ったので執行機関が把握しているかもしれない。

梅村委員：実証実験ができる条件もあるかもしれない。質問した際に、岩倉市で適合していないと言われないよう、ある程度調べて可能性がある中で質問したほうがよい。

桝谷委員：実証実験の優先順位の条件もあるかもしれない。

梅村委員：岩倉市は市域が狭く交通条件もよい。どこでもよいのであれば手を挙げればよいが。

桝谷委員：境町は鉄道駅がひとつもないということがあった。私が巡回バスを要望した際は、岩倉市には駅が3箇所あり、バス停が7箇所あるといつも答弁された。バス停はさらに増えた。

鬼頭委員長：情報を集めるしかない。他の項目で何かあるか。

梅村委員：議会と市民と事業者が連携するということのイメージは。

塚崎副委員長：相模原市のハッシュタグ運動が良いと思った。岩倉市の現在の発信には限界がある。今までの発信では魅力が伝わらないので市民活力を生かして発信してもらうというのが相模原市の仕掛けだったかと思う。

梅村委員：共創チャレンジ枠について、活動支援から発信支援と書いてあるが、活動支援に加えて発信支援としたほうがよいのでは。

塚崎副委員長：市民活動助成金が削減や縮小の方向へ向かっていること、助成額が満額になっていないこと、現在あるチャンネルが一方通行の発信になっていることがあり、自分たちで発信していく部分の強化が必要だと考えた。

梅村委員：もう少し具体的には。

塚崎副委員長：例えば付加価値的なものでもよい。特定のハッシュタグをつけて投稿した人に缶バッジをプレゼントしたり懸賞制度にしたりして、それをつけたて発信してもらう数を増やしていく。

梅村委員：それだと市民活動への助成金というより、市民全体への支援か。

塚崎副委員長：周知活動が弱く、何かやっても広がらないため、職員だけではなく市民団体等で周知活動を積極的にしていかないといけないと考えた。

鬼頭委員長：耕作放棄地についてはどうか。

塚崎副委員長：農地バンクが法制化されて令和7年度から変わっている。岩倉市の所管課に聞いたところ、岩倉市の農地バンクと法制化された農地バンクは全く違う制度のようだ。その現状をまずはしっかりと把握しないといけない。農地バンクを本格的にやっていくための起爆剤がないと耕作放棄地がそのままになってしまうのではないかと思う。

日比野委員：令和7年度に法改正された農地バンクと岩倉市独自で行っている農地バンクのふたつになってしまっているので、法制化された農地バンクのみにするという話はなかったのか。

塚崎副委員長：法制化された農地バンクは売買契約や賃貸契約をするための不動産会社のようなもので、その制度を使用しないと貸し借りができないようになった。岩倉市の農地バンクは情報を置いてあるだけのようである。地権者と個人をつなぐ活動もしていない。オペレーターと地権者をつなぐ役割はしているが、耕作放棄地の把握については年2回の農業委員会とのパトロールで指導するのみで、改善されない場合は仕方ないという状況である。

関戸委員：農業の話は不在者地主の話なので解決策があったら既にやっているし、解決がとても難しい問題である。西市町にもたくさんあるが、無料で貸してほしいと言いに行く先がない。地主が東京や大阪にいて、交渉や接触ができないような状態である。管理すると言って手紙を出しても反応がない。所有権は地主にあるのでそこに入つて何かするのは難しい。条件が悪いのでそうなっている。条件がいいところはうまく貸し借りして整理されているが、そうでない場所は水が入れられない等のいろいろな事情があってそうな

っているところである。

伊藤委員：農業は今何が問題になっているかというと、大山寺町は太陽光パネルがたくさん設置されている。今年、太陽光パネルを設置したところに除草剤が撒かれて、周辺の田の稻が全て枯れた被害が出た。地主や太陽光パネルの所有者、管理会社を集めたが、誰が除草剤を撒いたか申出がなく、問題になっている。そうすると農家は何年か米がつくれない。農協が米を持ち込まないように言ってくる。普通は補償問題になるが、農協は補償しないとのことであった。市もしない。除草剤を撒いた人が補償するが、誰も申出しない。

塚崎副委員長：不在者地主でも太陽光パネルでお金が儲かるのであれば反応があるのか。

伊藤委員：太陽光パネルを設置する人はもう米をつくらない人である。耕作放棄地と言えば耕作放棄地である。大山寺町には太陽光パネルの会社があるのでとても増えている。

塚崎副委員長：宮代町は除草剤を絶対に撒かないと言っていた。

関戸委員：宮代町のアイデアと岩倉市をどうやってマッチさせるかを真剣に考えると、どうしても土地の利用方法が全く違う。宮代町は農地、もしくは本当に条件が悪いところで、それ以外に使用方法がなく、今後開発される可能性がほぼゼロである。岩倉市の場合はどこの場所にも常に開発の可能性がある。そうすると、地主は売却できるなら売却したいため、長期的な賃貸契約ができない。そういう状況の中でどのように体験塾を具体化するか真剣に考えているが、とても難しい。農地を貸してほしいと言っても、借りられるのは短期間だと思う。もしくは、絶対に農地としてやっていくという強い意志がある地主の土地を探さないといけない。また、岩倉市は農地が分断されていて一人一人が持っている農地が狭いので、大きな農地を用意するのが難しい。

塚崎副委員長：市が農地バンクをやっている意味としては、オペレーターが少しでも広く耕作できるよう交換の調整することである。

関戸委員：実際に耕作すると分かることと思うが、同じように見えて水の流れ等の状況で収穫高が全く違う。どこが良い土地か毎年の耕作で分かっているので好き嫌いがあり難しいのでは。

伊藤委員：農地を集約すれば耕作しやすいが、岩倉市ではあちこちに家が建っていて難しい。農家の人は後継者もいないためオペレーターに任せるが、オペレーターも高齢化してきている。

塚崎副委員長：シビックプライドでまとまってきたので、可能な形で農の話も入れられるといいと思っている。宮代町と岩倉市が大きく違うのは、岩倉市はいつ開発の声がかかるか分からぬ優良地で地権者がそれを待っているところ。長期的に貸してほしいという話でなければ可能ではないか。

関戸委員：5年契約でも地主は嫌がるのでは。毎年契約でないと貸してもらえないと思う。

塚崎副委員長：何十年も開発はされていないと思うが、何を期待しているのか。住宅地にしたいのか。

関戸委員：地主の親族が家を建てるための道の入れ方がしてある。そこを農地として使用するのは難しい。広い土地がある地域は限定されてしまう。

塚崎副委員長：道を入れた土地に家が建たないのはなぜか。

関戸委員：市外に人が出て行って戻らず、そのままになっているところが多いのではないか。土地を相続した人が岩倉市にいないと、そのまま耕作放棄地になってしまることが多い。人が外に出て減っていっているという根本的問題がある。そこをオペレーターに少しずつ戻してもらっている状況だと思う。

塚崎副委員長：やはりオペレーターの数が圧倒的に少ないとは思っている。

関戸委員：土地が分断されていることと条件が悪いことが原因だと思う。

塚崎副委員長：そこと人を育てていくことはやっていかないといけないと思う。

日比野委員：宮代町の内容については代表質問ではなく提案者に一般質問してもらってはどうか。

関戸委員：それもよいと思う。

鬼頭委員長：あくまで提案のみである。

日比野委員：代表質問するのであればもう少し内容を詰めないといけないのでは、一般質問の方が向いているのではないかと思った。

塚崎副委員長：耕作放棄地だけでなくふるさと納税の問題もあり、境町のこともあるため、全てつながっている。ふるさと納税で負けているというところも絡めないといけない。方向性を変えればやれると思う。例えばスマートインターチェンジの開発も進んでいくので、そこに岩倉市の農拠点を構えて集客する構想もできると思う。

日比野委員：代表質問に取り入れるという前提か。

塚崎副委員長：そのとおり。いろいろな組み立て方ができると思う。

日比野委員：塚崎副委員長の個人的な思いが強いので、なおさら一般質問の方

がよいのでは。

塚崎副委員長：委員で合致できなければ仕方ない。農業体験塾は農業に興味がある人の入口としてやっているだけになっているので、もう少し広げていくのは大切な視点だと思っている。給食・子ども食堂・マルシェと提案しているが、このように小中学校の教育の一環として含ませていくのも大切な取組だと思う。

日比野委員：代表質問でないといけないか。

塚崎副委員長：なぜここだけ一般質問にしようとするのか。宮代町で学んできたことはマイナスの視点を全部プラスに変えたというところだった。できないところからどうやってアイデアを出して提案していくかというところが議員の力が問われるところだと思う。

日比野委員：宮代町での取組を岩倉市で再現することの難しさを指摘する委員がおり、代表質問で行うのは難しいのではないか。

梅村委員：まだそこまでの判断ができる内容ではない。一致すれば委員会代表質問で行いたいのだと思うが、どのような提案で何を一致させたいのかがよく分からぬ。

日比野委員：一致できるかを今日決めるわけでもないということか。

鬼頭委員長：まだ時間はある。

塚崎副委員長：これは骨子であり、3月定例会で代表質問を行うのであればかなり協議しないといけない。その最初の段階である。

関戸委員：一般質問で視察内容を扱いたい委員のためのテーマ開放も別の日に行うのか。

鬼頭委員長：一般質問で扱いたい委員がいれば申出してほしい。相模原市の内容はおおむねこの形でよいか。

(異議なし)

鬼頭委員長：農については何かアイデアを出していただくか、やめるかどちらかである。やめるなら一般質問でやってもらう。

塚崎副委員長：一度アイデアを募りたい。

鬼頭委員長：農に関しては一般質問をする委員が今のところいないのでこのまま深堀りしていくこととする。自動運転については実証実験の提案をしていく。春日井市に調査に行く。

日比野委員：調査の日程はいつか。

鬼頭委員長：1月15日もしくは16日でいかがか。午前中に調査を行い、昼食後に戻る予定である。場所は市役所か現地かまだわからない。春日井市と調

整できなかった場合は別の調査先を当たる。

塚崎副委員長：春日井市が第一希望で、それが無理だった場合は窓口時間短縮について調査してはどうか。議会が長引いた時の対応等について聞きたい。

県内で調査できる。

梅村委員：カスハラについてはどうか。

鬼頭委員長：窓口独自時間短縮の調査も調整できなかった場合はカスハラの調査を当たることとする。

（2）岩倉市商工会女性部との意見交換会の報告書について

鬼頭委員長：内容を確認して修正箇所があれば言っていただきたい。

・内容を確認し修正を行った。

（3）その他

桝谷委員：マスタープランのパブリックコメントの結果の報告について要望したがどうか。

鬼頭委員長：時間が必要で12月の全員協議会では話せないようである。年度内には説明することのことであった。意見がたくさんあり、それを協議会で協議し、協議会の意見も聞いてから市の意見としてまとめることである。意見がまとまり次第、全員協議会で報告してもらうことになると思う。12月に都市計画審議会が開かれるので、議員からも意見が出される。

8 その他

鬼頭委員長：次回の協議会は12月5日の総務・産業建設常任委員会終了後とする。